

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

教育部博物館

教育部長 岩橋平武

整理No.	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
30-001	文化財保護事業	なし	A	文化財保護事業では、「半田ハリストス正教会」から申請のあった「聖イオアン・ダマスキ聖堂」及び「聖障(イコノスタス)」の2件について、これらがビザンチン様式の聖堂が普及する以前の聖堂建築の名残を留める建築史上稀有な遺構であること、また、知多半島の歴史、宗教史を知るうえでも重要なものであることから、それぞれを市の有形文化財(建造物及び絵画)に指定した。 文化財よもやま話では、任期満了により新たな分野の専門家を文化財専門委員に委嘱し、幅広い分野でよもやま話を行うことができた。 また、文化財への親しみを目的に、市内の重要文化財を巡るバスツアー「重要文化財探訪ツアー」を開催し、子どもから大人まで幅広い年代の市民に向けて文化財の理解向上を図った。	改善 推進	市民が半田の文化に誇りと愛着をもち、自らが文化の担い手であることや、保存伝承の必要性について考えてもらえるよう、半田の発展の礎となった海運、醸造の歴史や、そこから育まれた山車祭りに代表される各種文化や文化財について、分かりやすく、親しみ易い内容の展示や講座を行う。
30-002	旧中埜家住宅保存管理事業	なし	A	建物への理解を深め、適切に後世へ継承すべき貴重な文化財であることを伝えるため、11月に第3回特別公開を開催し、文化財への親しみと保護意識の向上を図った。また、保存活用検討委員会では、旧中埜家住宅のさらなる保存活用の充実に向けて、この先も重要文化財建造物として適切な保存活用が図られるよう「保存活用の基本方針」を策定した。 旧中埜家住宅の後世への継承という大きな目的を達成するため、今後も適時適切な保存修理を計画的に行うとともに、文化財保護の大切さを伝えるための活用を拡充させていく必要がある。	拡充 推進	今後も重要文化財としての価値を後世に向けて維持するため、建物の保存管理を行っていく。あわせて、文化財保護の大切さを人々に伝えるため、特別公開を始めとした公開等活用事業を実施し、令和2年度からは「重要文化財旧中埜家住宅における保存活用の基本方針(令和2年3月策定)」をもとに、活用内容の充実を図っていく。
30-003	文化財保存修理等補助事業	あり	A	令和元年度は、ユネスコ無形文化遺産で国の重要無形民俗文化財である「亀崎潮干祭の山車行事」を始め、8件(山車関係7件、山車関係以外1件)の文化財について、所有者が行う保存修理へ支援を実施した。特に、山車関係以外の文化財の保存修理として、半田の祭礼文化を知るうえで貴重な資料であり、市の有形文化財(古文書)に指定している「乙川八幡社祭礼絵図(宝暦年間作成)」について、後世に守り伝えるべき貴重な市民の財産であるとの観点から、所有者に保存修理の必要性を説明し、虫食い、褪色等からの修理支援を行った。 市内には山車以外の文化財も多くあり、保存継承のためには、文化財所有者による保存修理等が確実かつ計画的に行われる必要がある。	改善 推進	市内には山車を始めとする文化財が多くある。山車の保存継承は計画的な修理等が行われていることもあり、市による適切な把握も可能であるが、他の文化財については状況の把握が難しく、所有者から相談があったときには、すでに損耗が進行していたり、修理のための資金調達が困難な場合もある。 文化財が市民の貴重な財産として確実に後世へ保存継承されるよう、補助制度や保存管理手法などについての情報を適切に発信し、所有者による保存修理が定期的に行える環境を整えらるとに、限りある財源を有効に活用した支援となるよう、必要性や緊急性などを考慮していく。

整理No.	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
30-004	博物館一般事務	なし	A	「製塩土器を作ろう」や「ハロウィンかぼちゃでランタンを作ろう！」など、企画展に関連した講座を開催することで参加者の興味関心を高めるとともに、展示への理解を深めることができた。新型コロナウイルス感染症の影響により3月4日から臨時休館となったことで、年間の来館者数は減となったが、「目指せ！カイコマイスター」、「天然石できれいな万華鏡を作ろう！」など、親子で楽しめる講座を新たに開催し、講座参加者数は昨年度を上回ることができた。 今後も学芸員の専門性を活かしつつ、参加者に楽しみながら学べるような魅力的な講座を開催していくことが必要である。	改善 推進	幅広い年齢層の方に興味関心を持ってもらえるよう、学芸員の専門分野を活かした講座や企画展に合わせた講座・関連イベントを実施することで、さらなる入館者数の増加に努める。また、常設展示室の展示や解説等を改善し内容を充実させることで、さらに魅力ある博物館づくりを推進していく。
30-005	企画展開催事業	あり	B	企画展「塩のはなし」や「あいちの伝統野菜」をはじめ、「第34回知多工芸展」「柴山清風展」等を開催し、地域の自然や歴史、芸術などを多くの市民に紹介することができた。 また、展示に関連した博物館講座を行うことで、より理解が深まるよう工夫した。今後も魅力的な展示内容に加え、様々な関連イベントで来館を促す工夫を行っていく必要がある。 なお、入館者については、新型コロナウイルス感染症の影響により3月4日から臨時休館となったため、目標値を下回る結果となった。	改善 推進	地域博物館の特性と学芸員の専門性を活かし、資料を通じて地域の自然や歴史、民俗、芸術等について学ぶ機会を提供する。 また、展示の内容を充実させるとともに、講演会や博物館講座などの関連イベントを充実させることで来館者の興味関心を高め、生涯学習の推進と来館者の増加を図る。
30-006	博物館展示等整備事業(H30から新規)	あり	A	市内各地でのロケ撮影や映像編集等を完了し、教科書に沿った内容で分かりやすく、かつ鑑賞者が興味を引くような構成にすることができた。 今後は、小学校3年生の見学学習で有効に活用するとともに、見学学習以外の活用方法を検討する必要がある。	終了	映像ソフトの更新が完了したため、今後は、令和2年度以降に実施する小学校3年生の見学学習の際に、博物館の視聴覚室にて映像ソフトを活用し郷土学習を行う。 また、映像を補完する補助的なツール(子ども向けの解説やワークシートなど)の開発や、教材としての各学校への貸出、展示・イベント等での活用などを検討する。
30-007	図書館、博物館管理運営事業	なし	B	エレベーター部品の修繕に加え、利用者の安全に関わる空調等の修繕、建物の躯体に影響を及ぼす恐れのある雨水配管取替修繕等、緊急的な修繕に適切に対応した。 現施設は、昭和59年に開館しており、建物及び設備の老朽化が進行していることから、今後も修繕を計画的に実施していくが、予測不能な故障等が各所に発生する状態であり、その都度適切な対応が求められる。	改善 推進	図書館・博物館は、地域文化の振興や市民の学習活動支援にとって重要な社会教育施設であり、利用者の安全・安心と郷土の貴重な収蔵資料の保管環境の確保が必要である。 今後も、施設の適切な管理、運営のため、特定建築物の定期調査等で指摘を受けた箇所の改修を始め、施設、設備の各種更新、修繕等を適切に実施していく。
30-008	図書館、博物館施設等改修事業	あり	B	令和元年度は、図書館・博物館空調(事務室)更新工事、図書館・博物館エントランス屋根防水改修工事等を行った。 現施設は昭和59年に開館していることから、建物及び設備の老朽化が進行している。必要な改修を計画的に要望のうえで実施しているものの、修理箇所数は年々増えており費用も高額である。	改善 推進	図書館・博物館は、地域文化の振興や市民の学習活動支援にとって重要な社会教育施設である。 今後も適切に運営できるよう、必要な施設等改修を行っていく。利用者の安全・安心と、郷土の貴重な財産である収蔵資料の保管環境を確保するとともに、施設の維持及び延命化を図っていく。

整理No.	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性		
			自己 評価	評価内容	方向性	内容	
課等長	A	1次評価(元年度の総括評価)					
		文化財保護の各事業では、半田ハリストス正教会の「聖イオアン・ダマスキンの聖堂」及び「イコノスタス(聖障)」の有形文化財(建造物及び絵画)への指定を始め、保存修理への補助、旧中埜家住宅特別公開の実施、同住宅に関する「保存活用基本方針」の策定、親子で市内の重要文化財をバスで巡る「文化財探訪ツアー」の開催など、子どもから大人までの幅広い年代に向けて文化財の価値や後世への伝承の必要性を伝えることができた。また、博物館の各事業では、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、一部を中止せざるを得ない状況となったが、博物館としての専門性を活かしながらも、誰もが学びやすい企画や講座を行うことができた。今後は、新型コロナウイルスを始め、新たな感染症が発生した際も学びを発信できる博物館にしていく必要がある。					
部等長	B	2次評価(元年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項)					
		市民の文化的教養を高めることが博物館の使命であり、令和元年度は、学芸員の専門性を活かしながら、専門的であっても、分かりやすく、親しみやすい企画や講座を行うことで、より多くの市民が利用する施設を目指すよう指示(年間来館者数100,000人目標)を行った。この指示のもと、子どもから大人までが親しめる企画展と、企画展に関連する体験講座を開催した結果、当初は昨年度(96,000人)を上回る来場者が見込まれたものの、新型コロナウイルス感染症の拡大で臨時休館措置が必要となり、最終的には89,000人の来場者となってしまった。良い企画であっただけに大変残念であり、今後もこの方法を踏襲し、博物館が、市民による郷土の自然、歴史、文化等についての学びを支え、発信していく施設を目指す必要がある。					